ドキュメンタリー「PHILIPSTOWN WIRECAR GRAND PRIX」

動画トランスクリプト

スピーカー1：この大地。この針金の車。この道を走る姿。すべてが本物であるかのように感じられます。これを押して走り回ると、まるでハンドルを握って運転しているような気分になります。それに、意外といい感じで走ってくれます。

スピーカー2：ワイヤーカーには想像力が必要です。自分が本物の車に乗っていて、自分が制御しなければならないと想像するのです。

スピーカー3：僕の才能が皆の目に留まれば、僕自身にも気づいてもらえる...僕らは自分たちの存在を認めてほしいと強く望んでいます。

スピーカー4：僕は6回優勝しました。まるでスーパーヒーローになったような気分でした。有名人みたいな...本当に有名になったような最高の気分でした。

スピーカー5：ワイヤーカーは軽くなければなりません。合図が出たらすぐに走り出す必要があるからです。

スピーカー6：僕の競争相手はRivanoです。なぜなら彼は他の人よりも速いから。

スピーカー7：Pockles、Pockles！Pocklesは速いって言うけど。僕はそう思わない。

スピーカー8：ワイヤーカーは僕にとって単なるゲームではありません。自分の未来をいつの日か変えたいからです。特別な日になります。ハッピーな1日。土曜日だからね。

Copyright © 2026 Accenture
All rights reserved.

Accenture and its logo
are registered trademarks
of Accenture